

# 平成 11 年度ヘテロカプサ赤潮等緊急対策事業（抄録）

里 圭一郎・天真 正勝・宮田 匠

本調査は近年その分布を拡大しているヘテロカプサ サーキュラリスカーマ (*Heterocapsa circularisquama*) の東部瀬戸内海における初期発生域，予察技術を開発するため，平成 11 年 6 月 30 日～8 月 28 日の間，香川県，兵庫県，水産庁及び民間機関との共同でプランクトン出現調査，海洋環境調査等を実施したものである。

平成 11 年度における徳島県担当水域（播磨灘南東部（内の海を含む。））での本種の出現状況について取りまとめたので，その概要を報告する。なお，詳細については「平成 11 年度赤潮予察技術開発試験ヘテロカプサ赤潮等緊急対策事業成果図集」を参照されたい。

## Heterocapsa circularisquama の出現状況

内の海で前年に 3,300cells/ml に達する赤潮を形成したヘテロカプサ サーキュラリスカーマは，本年は 8 月下旬から 9 月下旬の間に出現した。最高細胞密度は 9 月 10 日の 5cells/ml (St.3 0.5m) であった。台風 16 号通過に伴うまとまった降雨（9 月 14 日 78mm）や 9 月 20 日以降の秋雨前線，台風 18 号の影響による断続的降雨が本種の増殖を阻害したものと考えられる。

なお，播磨灘海域において本種の発生はみられなかった。